

知的財産権概論 第8回

審査と審判

たくみ特許事務所
弁理士 佐伯 裕子

審査と審判

1. 審査で指摘される拒絶の理由
2. 補正の時期の制限、補正内容の制限
3. 審査・審判での審理の進め方
4. 知的財産権と裁判所

審査官による実体審査

出願明細書

審査請求

- ①発明の成立性違反
- ②発明の単一性違反
- ③明細書記載不備

先行技術調査

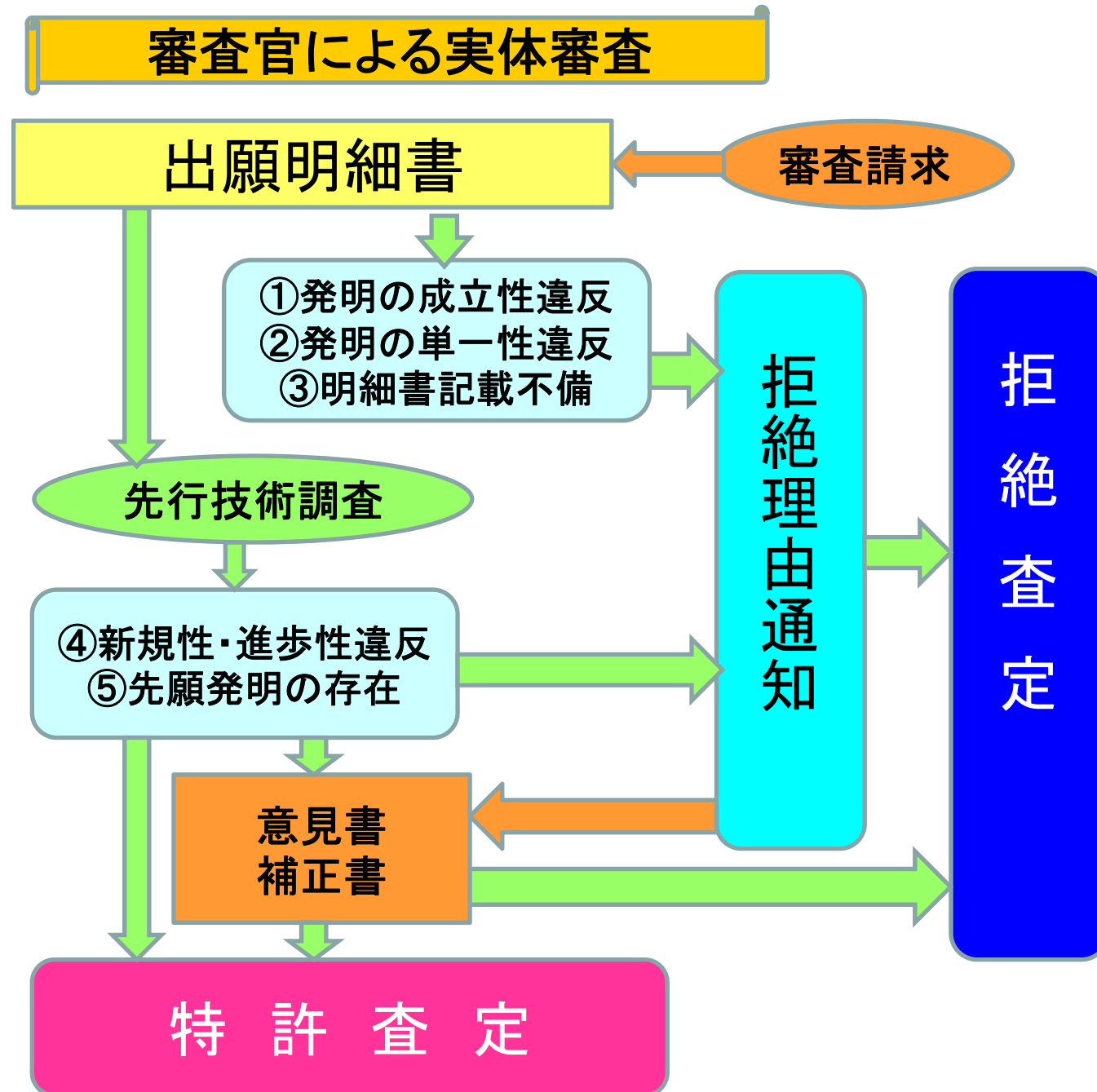
- ④新規性・進歩性違反
- ⑤先願発明の存在

意見書
補正書

拒絶理由通知

拒絶
査定

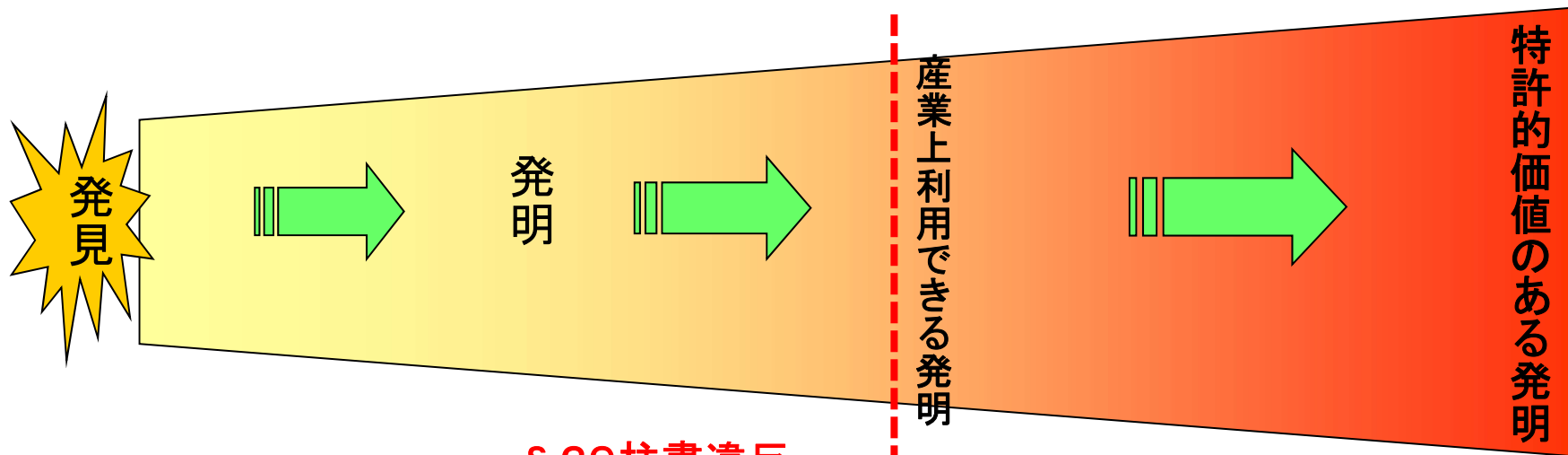
特 許 査 定



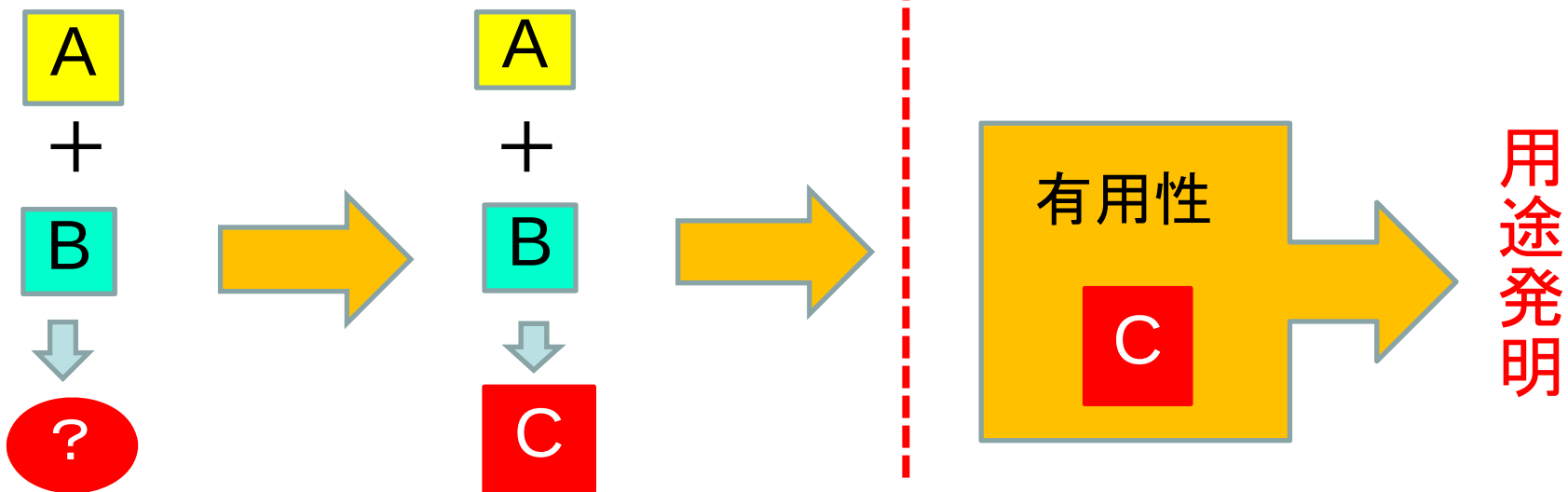
拒絶理由 特許を受けられる発明

- ① 産業上利用できる発明ではない
§ 29-1 柱書
- ② 発明の単一性を満たさない
§ 37
- ③ 新規性がない
§ 29-1-1, 2, 3
- ④ 進歩性がない
§ 29-2
- ⑤ 先願がある
§ 39 § 29の2
- ⑥ 明細書の記載に不備がある
§ 36-4-1, 6-1, 2

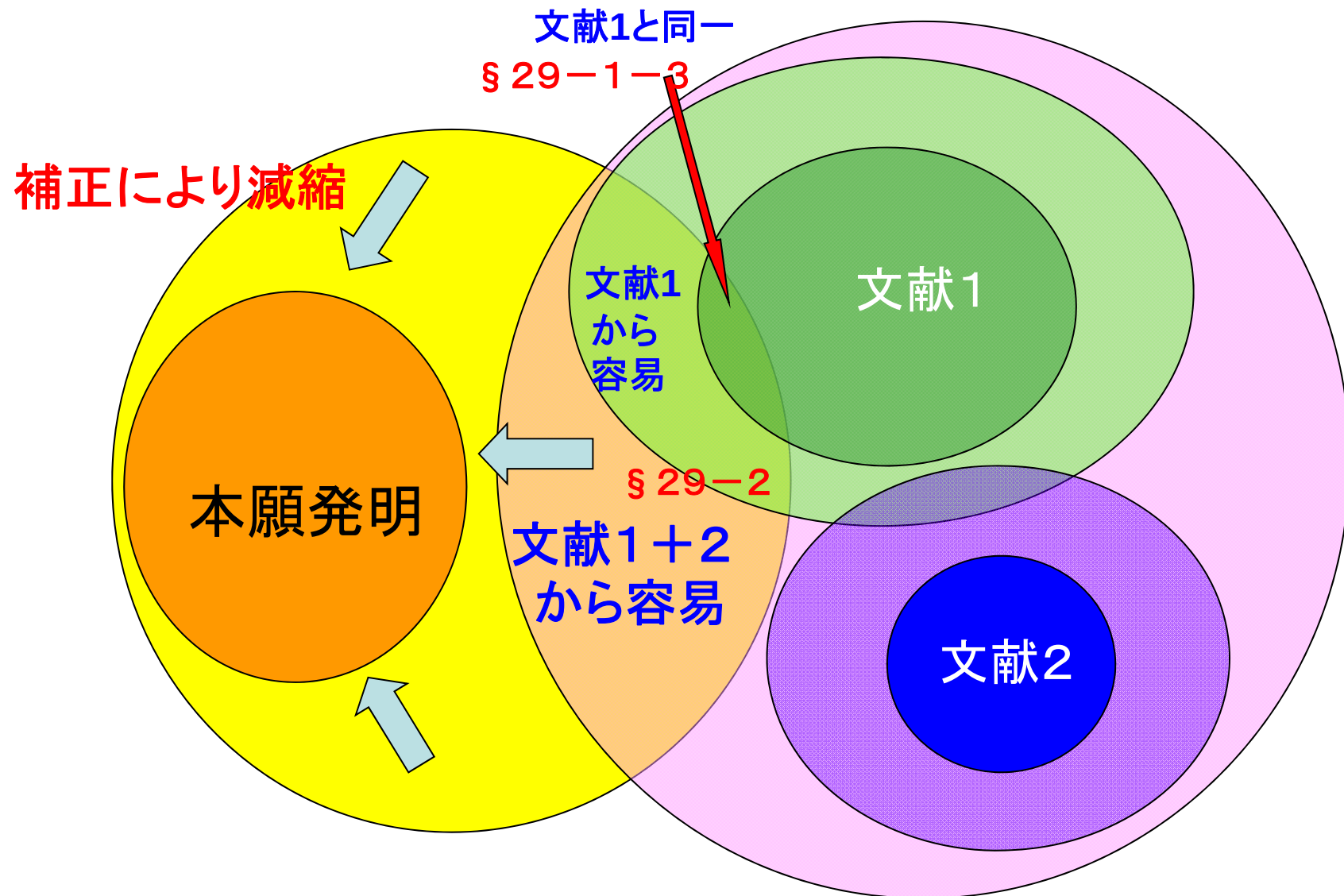
産業上利用できる発明とは



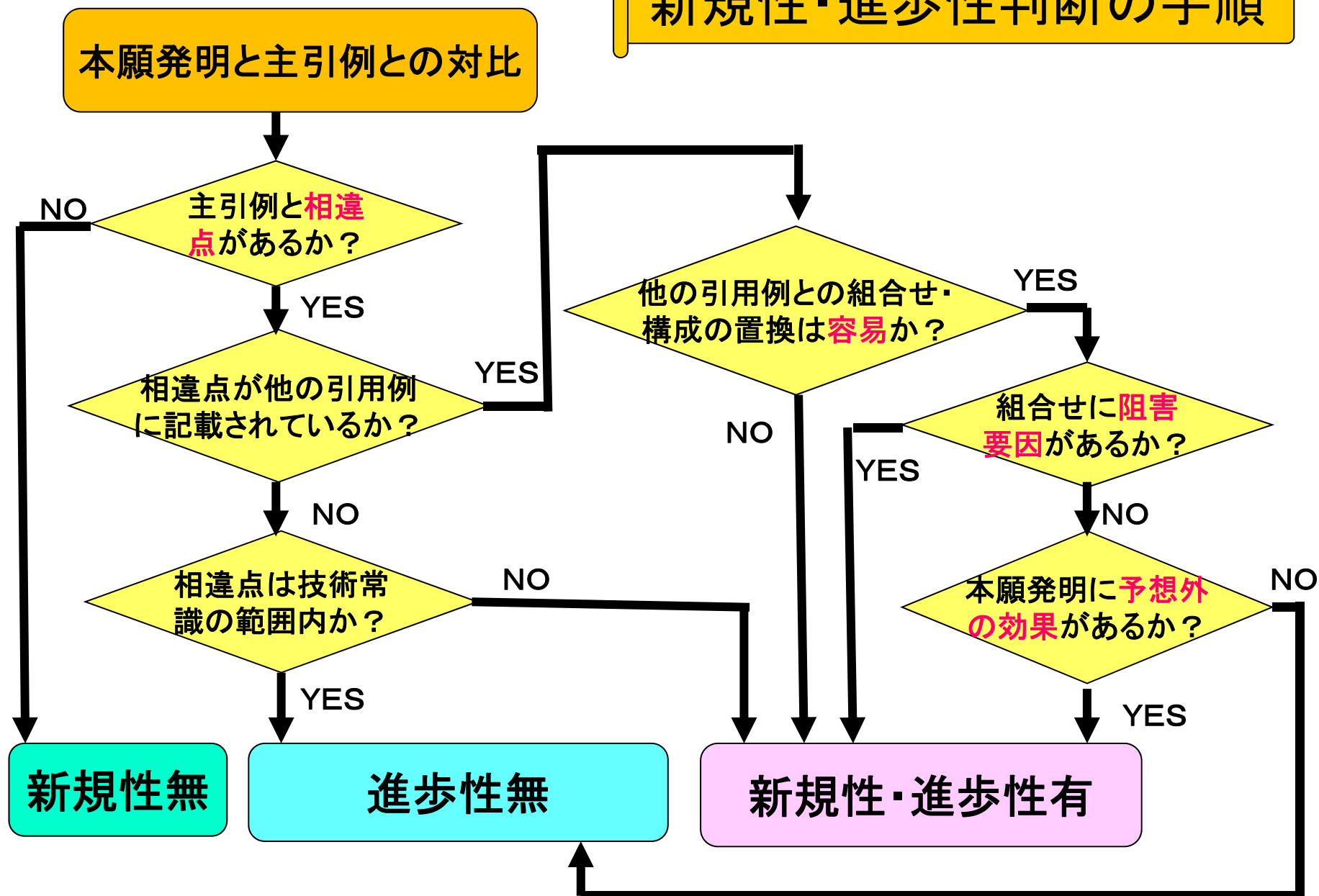
§ 29 柱書違反



新規性と進歩性



新規性・進歩性判断の手順



特許法30条とその注意点

Sの
学会発表
2014.4.1

出願期限
2014.10.1

6か月

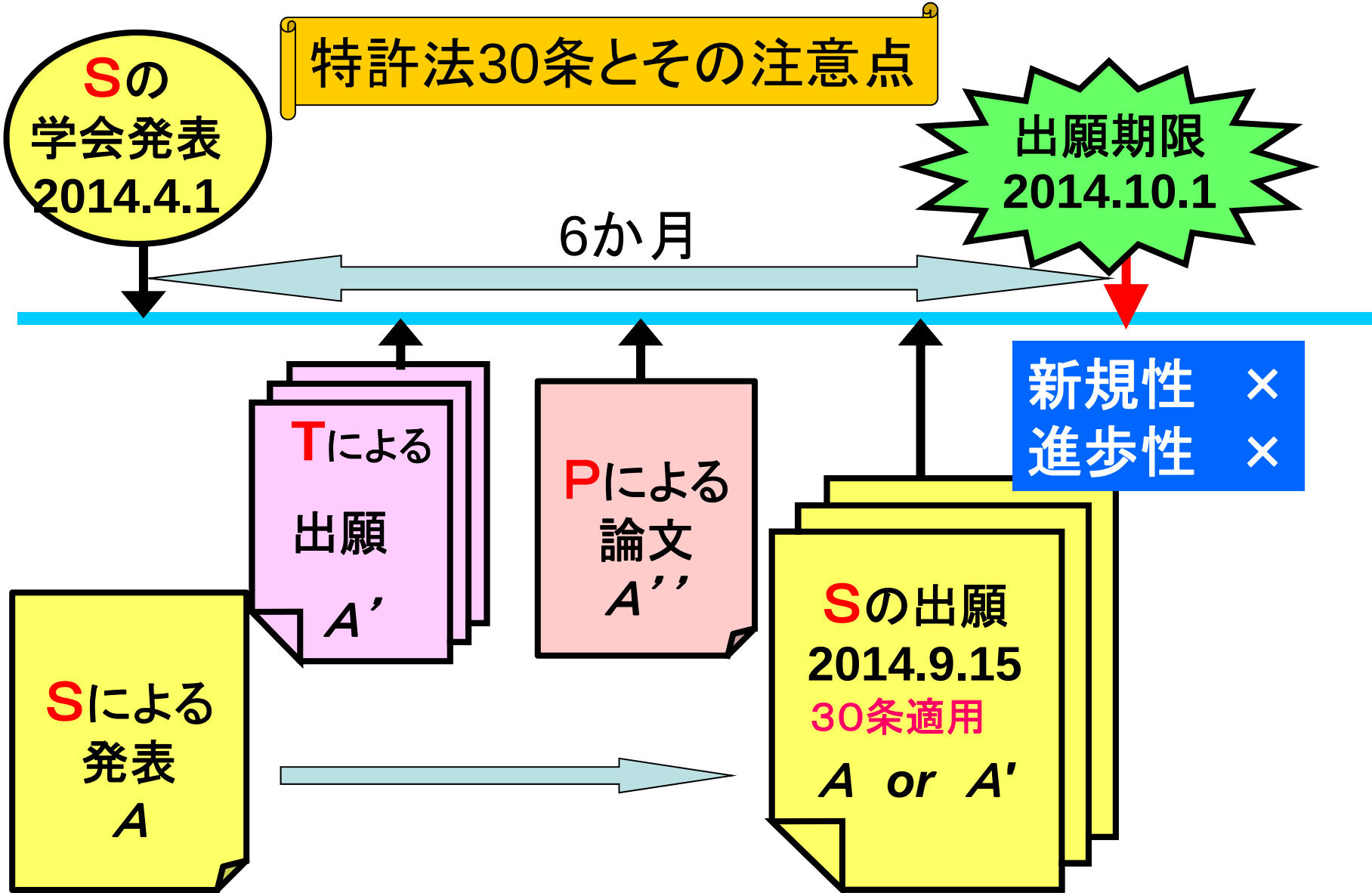
新規性 ×
進歩性 ×

Tによる
出願
 A'

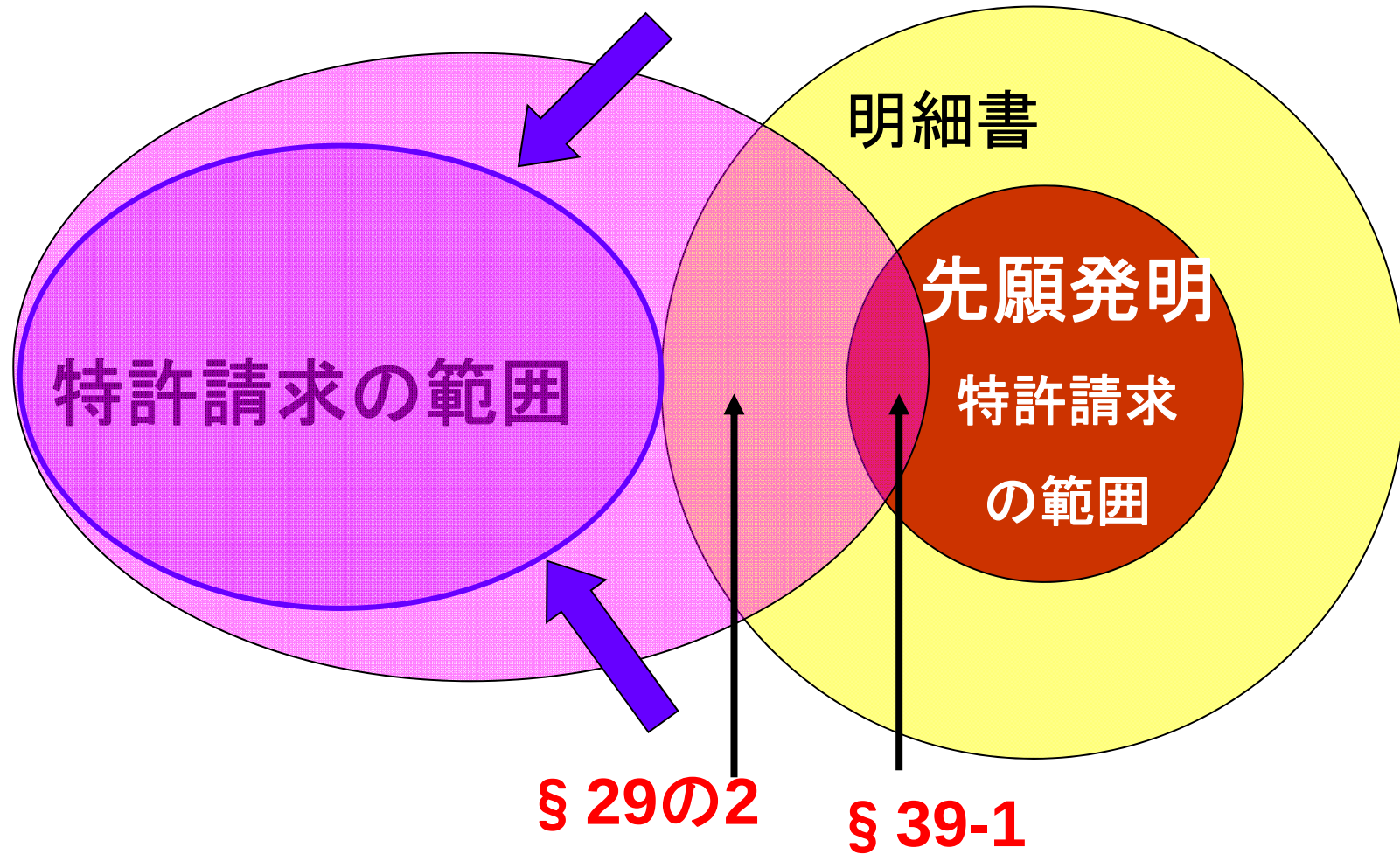
Pによる
論文
 A''

Sによる
発表
 A

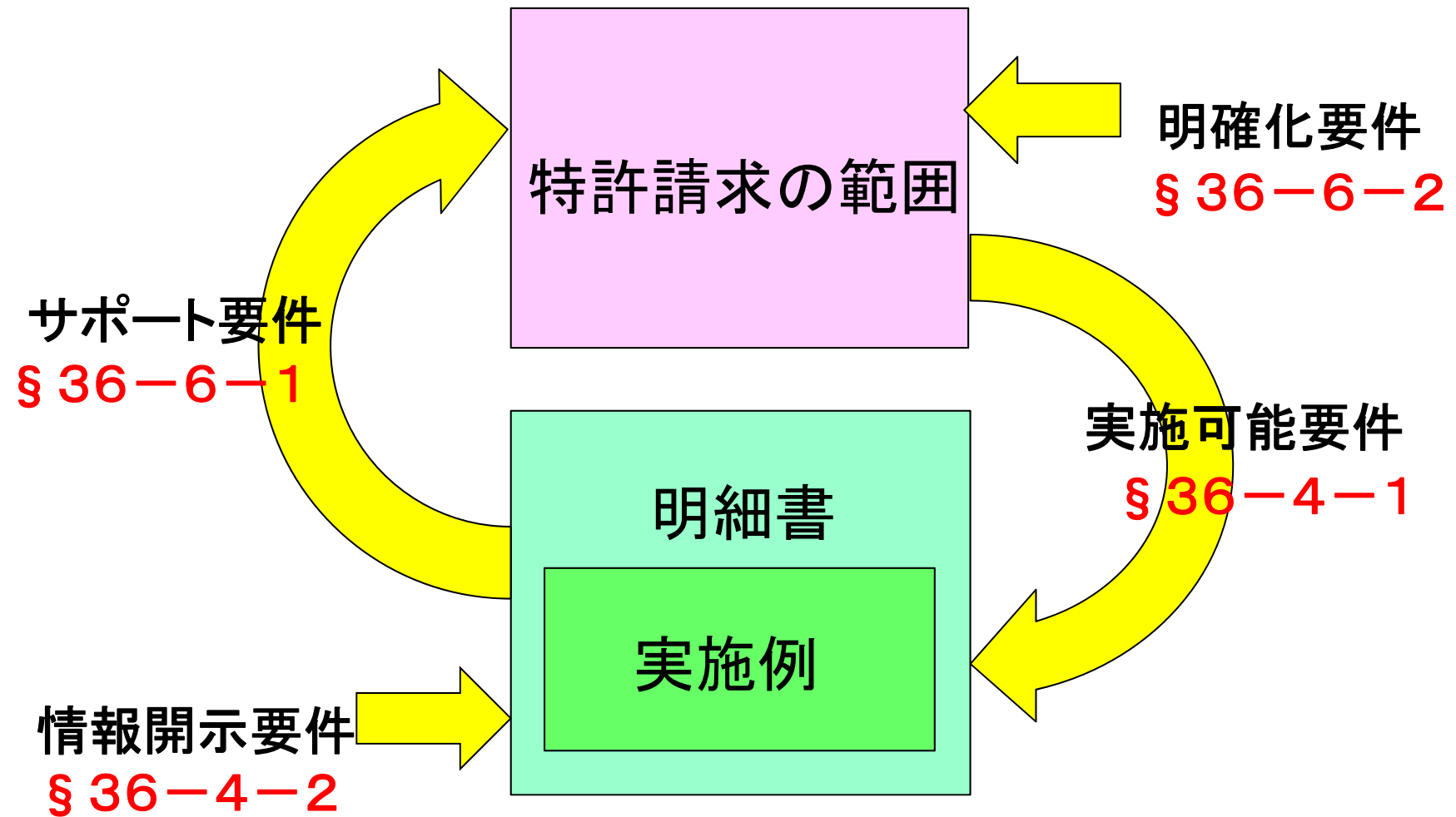
Sの出願
2014.9.15
30条適用
 A or A'



先願発明がある場合

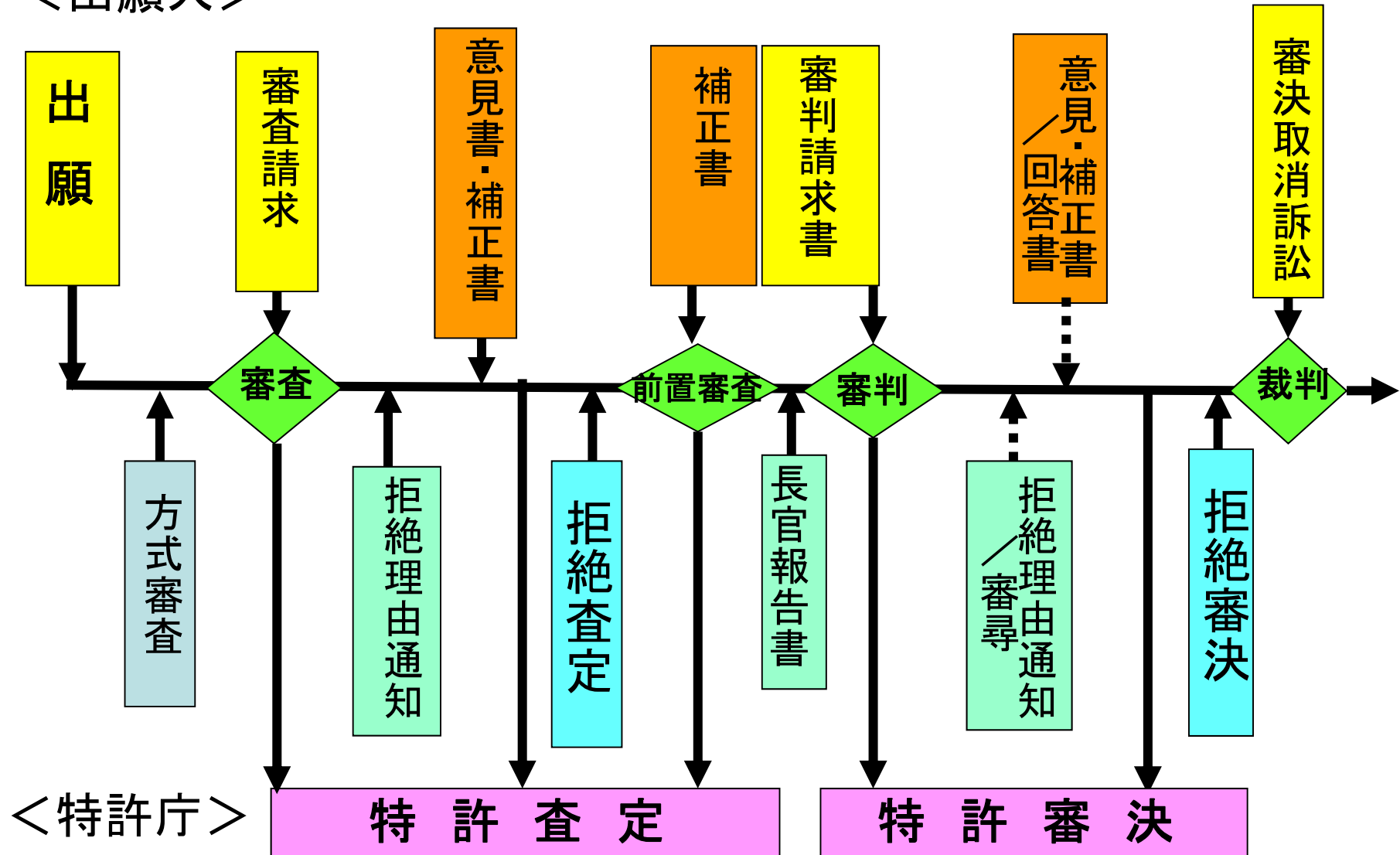


特許法第36条に規定される要件



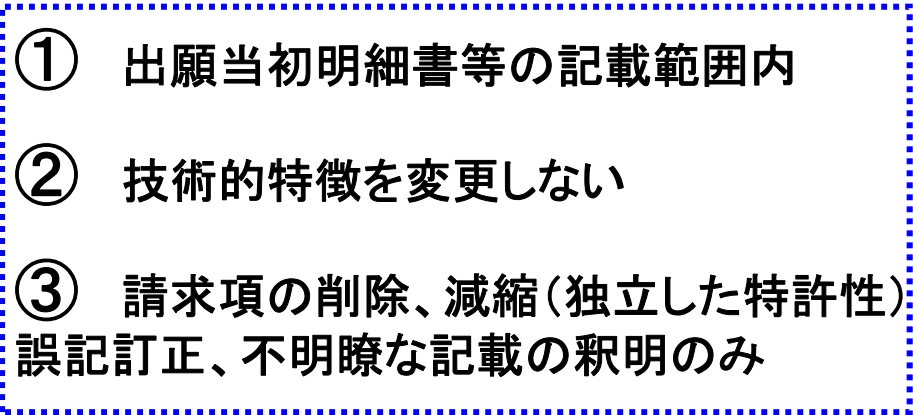
審査と審判の審理の流れ

<出願人>



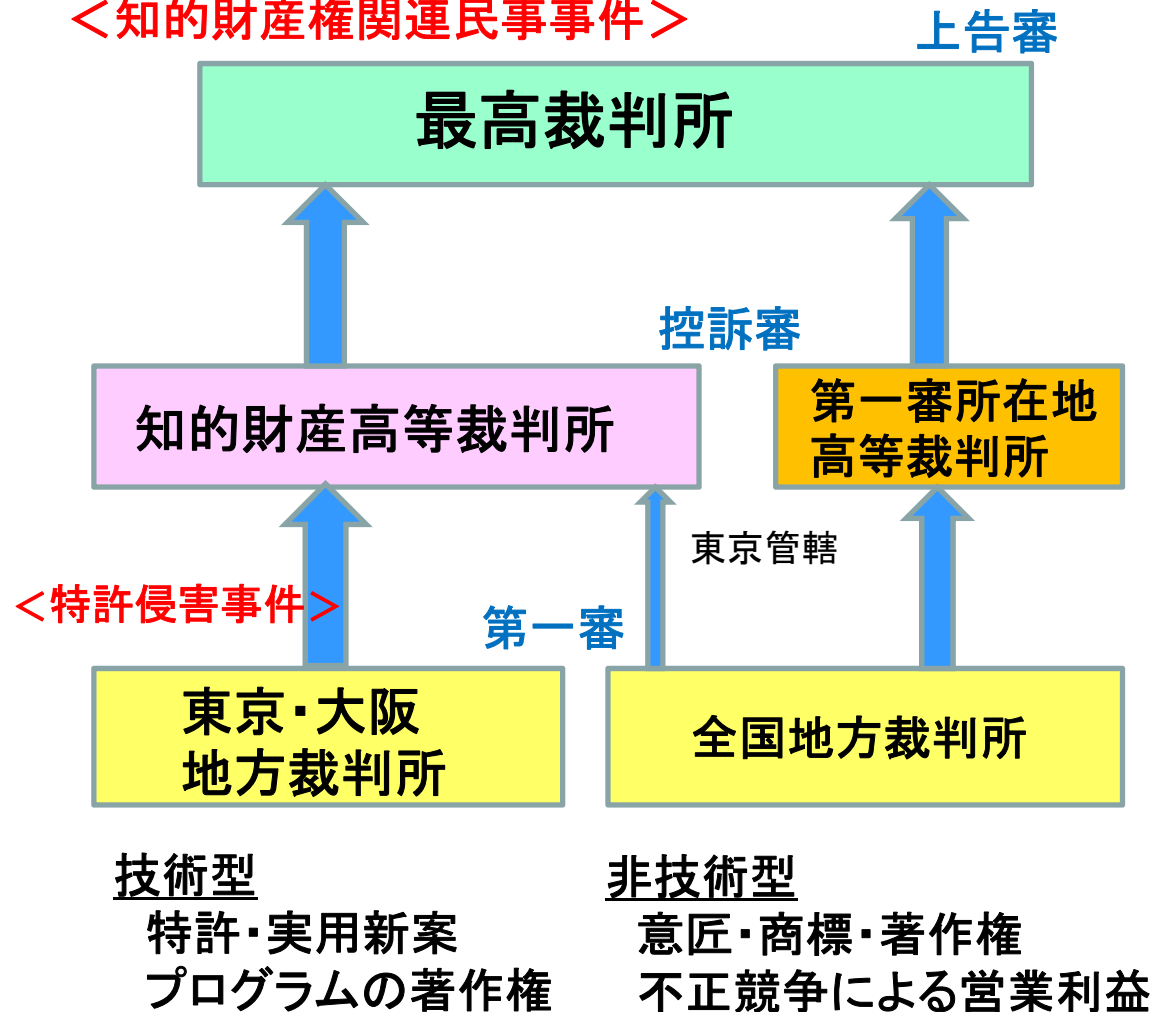
<特許庁>

補正の時期と制限

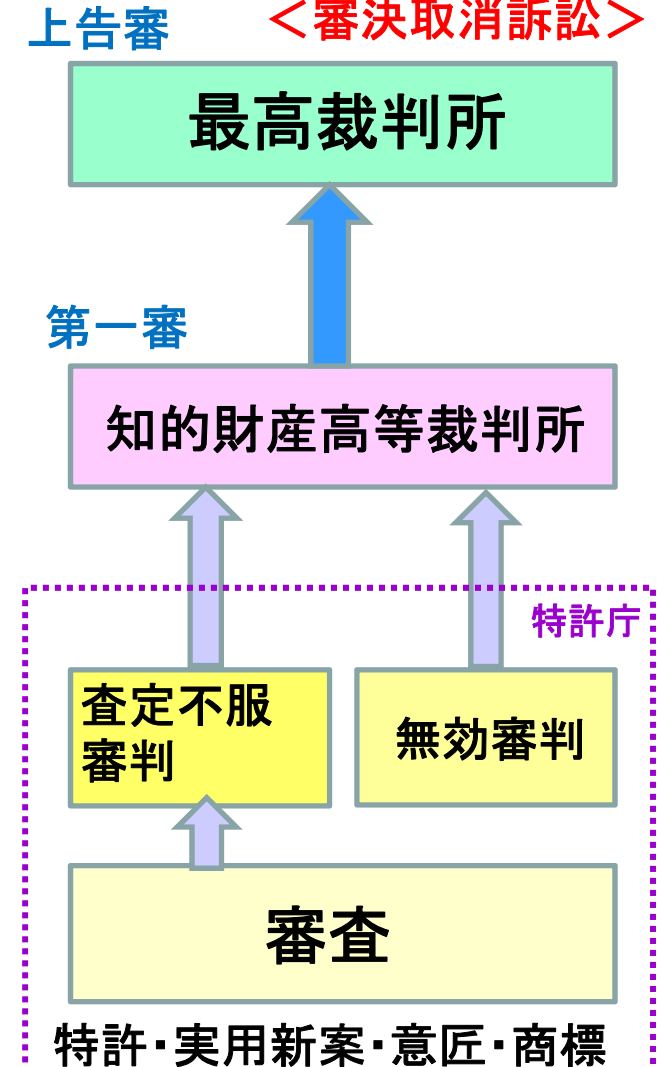


知的財産権関連の裁判

<知的財産権関連民事事件>

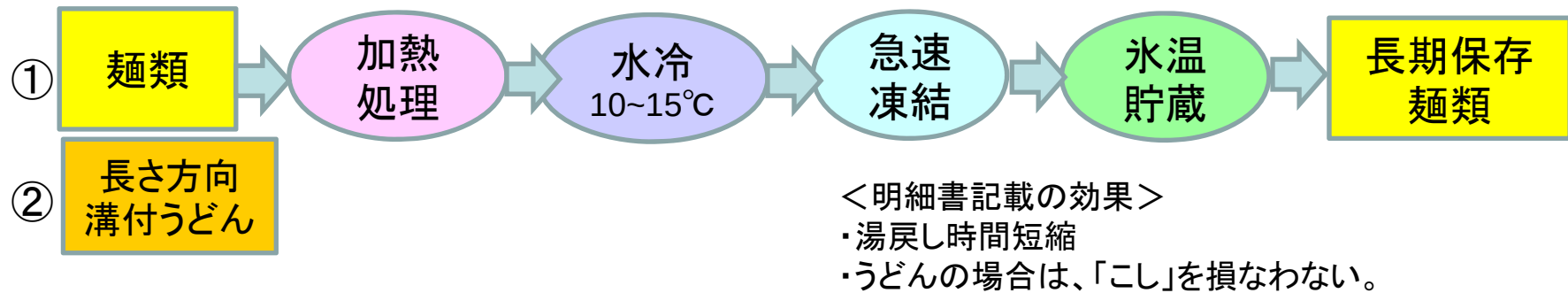


<審決取消訴訟>

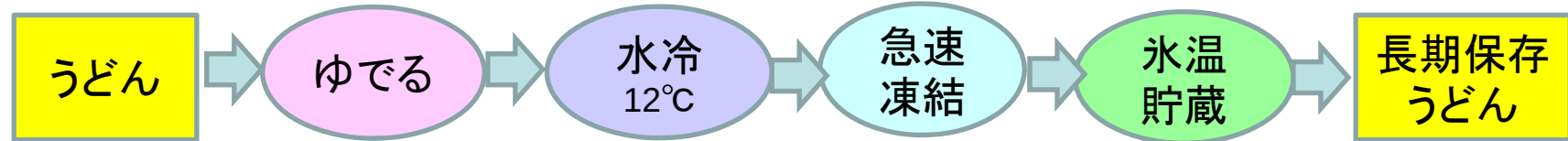


練習問題

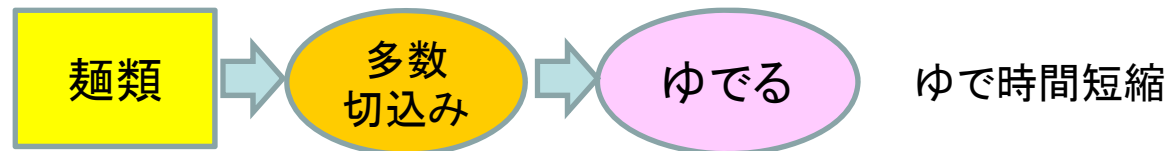
本願発明(①請求項1 ②請求項2)



引用文献1



引用文献2



今日のポイント

1. 拒絶理由について

拒絶理由の種類とその対処方針

2. 補正について

補正時期の制限と補正内容の制限

3. 審査・審判での審理の進め方

4. 知的財産権と裁判所